

K A S

Cotton Up



こっとなあつぷ

Vol. 116



ケーブル作業は根気のいる仕事です！

目次

- ・「W・D・S・N 39」
～Aさんのスケジュール獲得の経緯と以降の変化について～ <2～4 ページ>
- ・ソーシャルワーク実習を終えて <4～5 ページ>
- ・後援会のご案内・ボランティアさん大募集中！！ <6 ページ>
- ・編集後記（編集部） <6 ページ>

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会

代表者 内田照雄 〒243—0035 厚木市愛甲 2—11—6—109

（毎月 1 回 15 日発行） 購読料 1 部 15 円

「T・D・S・N・39 (Tanpopo Daily Support News)」

～Aさんのスケジュール獲得の経緯と以降の変化について～

今回は一人の利用者さん(以下、ご本人)が、約 2 年をかけて、スケジュールの使用方法を獲得した経緯を報告致します。

ご本人は、わたげで作業を中心に、休憩、役割活動を行っています。主な作業はケーブルを手で剥いて中の銅線を取り出す作業です。現状では上記の作業を 1 回 10 本で行っています。ご本人は両手で銅線から皮を剥がし、銅と皮のケースにそれぞれ分別します。1 回の作業時間は 2～3 分ですが、それを繰り返し、1 日トータルで 400 本程度行うことが出来ます。役割活動は、ケーブル作業で出たゴミ運び、家庭での生活でも役立つように廊下の雑巾がけを行っています。雑巾がけは、最初は片道だけの一方通行で終わっていましたが、繰り返し活動を行う中で、現在では往復して活動を行うことが出来るようになり、廊下をピカピカにしてくれています。

上記の作業、休憩、役割活動(ゴミ運び、雑巾がけ)のほか、昼食、お茶、着替え、外出など、それぞれスケジュール提示を使い、日々活動しています。ご本人に活動内容をお伝えする全ての提示物は、活動に使用する道具をそのまま使用しています。現状では、実際に使用する物が、最も正確にご本人に職員側が伝えたい意図が伝わると評価している為です。今回変更する前のスケジュールは、次の活動の提示物を、各活動エリアの脇に置いておく形でお伝えしていました。

ご本人は各活動を早いペースで行います。この時、職員の準備が追いつかないと、自分の目についた作業の材料を持って行ったり、提示物ではなく、他の人の動きを見て昼食や帰りの支度に向かおうとする様子が見られました。自分の目についた作業の材料を持って行く行動は活動への意欲の表れであり、他の人の動きを見て行動するのは自分の予定が明確でない中でも、ご本人なりに判断して行動しようとしている様子であると評価しました。ご本人は自律して活動しようという意欲があるのに、職員がスピードに追いつけず、準備が追いつかない時があり、ご本人に苦しい思いをさせている状態でした。そこでご本人にとって、よりわかりやすく予定をお伝えする為、それまで使っていたスケジュールを見直しました。



**廊下の雑巾がけ
みなさんが通る通路を
きれいにしてくれます！**

まず初めに、スケジュールの伝え方を変更しました。それまでは、各活動エリアの横に次の予定を示す提示物を置いていましたが、トランジションエリア(中継地点)を設置し、そのエリアに置くようにしました。ご本人には必ずそこを経由し、置いてある次の活動の提示物を取って移動するようにお伝えしました。この変更をしたのが 2014 年 4 月です。正しい流れが身に付くよう、職員と確認を続けました。定着してきたのは 2014 年 10 月です。流れが定着してきたところで、次の段階として、3 つ先までの見通しをお伝えすることにしました。

3 段の棚を作成し、トランジションエリアに設置しました。例えば一番上が作業、中央が休憩、一番下が帰り支度の提示というように、3 つ先までの見通しが分かる形にしました。ご本人に、棚の各段の提示物を、「上から順に取る」



**トランジションエリア
丸内が提示を置く棚、
矢印が道具を片付けるところ**



道具を片付けて次の提示を取ります

手順をルーティンとしてお伝えすることを試みました。

また、活動し終えた後、今までは、使用した道具は机に置いたまま次に移動していましたが、それをトランジションエリアの棚の下に設置した箱の中に片付けてから次の提示を取る、という形にしました。

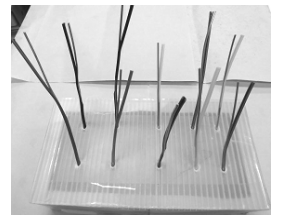
最初は段の位置に関わらず、やりたい活動から提示を取って行おうとする様子が見られました。職員がその都度、使い方を説明する対応を続けました。「上から順に取る」、「終了後、道具を片付ける」という行動が見られ始めたのは 4 ヶ月後の 2015 年 2 月、自立して行う頻度が増えてきたのは、2015 年後半です。

このように、トランジションエリアや棚を使った見通しを持てるスケジュールの使用方法を、約 2 年近くかけ、ゆっくりと獲得していきました。

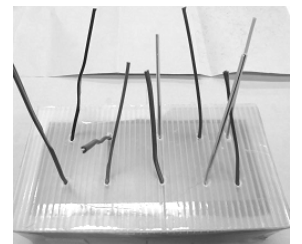
スケジュールが定着してきて以降、自立的な行動だけでなく、通所後のご本人の様子にも変化がありました。それまでは、通所後一定の距離を、歩いて何度も往復しながら、徐々に活動に集中していくという様子が見られていました。職員は、ご自宅とわたちでの活動

との気持ちの切り替えに時間を要するのだろうと解釈していました。しかし、スケジュールの自律的な使用が頻度高く見られるようになって以降、通所後に歩く頻度が大きく減りました。驚きの変化があったのは長期休暇明けの日です。以前は通所後、いつもより長く歩いたり、活動に集中しづらい状態であることがほとんどでした。しかし、2016 年の冬期休暇明け、夏期休暇明け、ともに「昨日も通所した」という雰囲気ですぐに活動を始めようとするご本人の姿がありました。長期の休暇明けもスムーズに自立的に活動出来ていたことから、現状の活動環境がご本人にとって分かりやすいものになっているのではないかと考えています。以前の「切り替えが難しい」という評価は、ご本人の苦しさに気づけなかった職員側の判断でしかなく、ご本人は歩く行動で「分かりにくい」「やりにくい」と伝え続けてくれていたのだと感じました。

他にも良い変化がありました。ケーブルを剥く作業では、2 年前は職員がケーブルの先端を Y の字に開き、両手でつまみやすく、剥きやすいようにして提供していました。しかし、ご本人に提供した中に Y 字にし損ねたもの、不十分な物があっても、爪先を使い、何とか剥こうとする様子が見られ始めたことから、職員が意図的に Y 字にしていないものを提供し、出来ていることをきちんと伝える対応を繰り返していきました。結果、現在では先端を Y 字にしなくても、自分で指先を器用に使って剥き、上手く剥けなければ自ら銅線を反対向きにして反対側から剥こうとする工夫も見られるようになっていきます。(右写真) これはご本人の「やる気」が明確に見られた行動で、大変嬉しい瞬間でありました。1 回の作業量も増やして行けるのではないかと期待が膨らみますが、ご本人の負担にならないように、記録をとって検証していきながら、より良く力を発揮できる量に増やしていきたいと思ひます。



以前は、先端を 3 cm ほど Y 字に開いていました



開いた部分がなくても、指先を器用に使って剥いています

変更してからの時間経過を見ると、スケジュールや作業の提供方法など、長い時間をかけてご本人が獲得していったことがお分かり頂けるものと思います。私は、利用者さんにとってのスケジュールとは、私たちの手帳のようなもので、ご本人が見てすぐ分かる、すぐ使える物であるべきだと思っています。その考えの為か、変更当初は早く良い結果を求めて次々と支援方法を変えようとしていました。しかし、支援の方法に疑問が湧くたびに、職員間で話し合い、継続して伝えていくことを再確認し、支援を続けてきました。

現在、通所直後から自立して活動しているご本人を見て、非常に嬉しく思います。ご本人の行動をよく見る事で「芽生え」を感じ、「出来る」と信じて取り組み続ける、獲得まで丹念に関わることもまた、一つの方法であると感じました。

ある時、スケジュールを置く 3 段の棚全てに次に活動する提示物が入っていないことがありました。完全に職員のミスです。すると、ご本人が職員の手を引き、棚の所まで連れて行って、棚に触らせるような行動をしました。「棚に提示物が入っていない。準備して。」とご本人が訴えていることは容易に察しがつかれました。今までと異なり、手を引く行動で、ご本人が伝えてく
かりやすい環境が準備できれば、それまで見えなかったご本人で感じた出来事でした。

次の目標も生まれてきました。より先の見通しを持って活動することや、ご本人が積極的に他者にコミュニケーションをとれるようになることです。新たな目標が生まれた喜びを持って、ご本人と共に毎日一生懸命仕事をしています。今後も新たな報告が出来るよう、努力していきたいと思います。

鈴木 研二



自信をもって活動されています！

[illegible]

今年度、ソーシャルワーク実習の実習生1名を受け入れました。約1ヶ月間の実習を終えての感想を寄せていただきました。長期間の実習お疲れさまでした！！

ソーシャルワーク実習を終えて

2016年8月8日（月）～9月16日（金）の23日間、わたげで実習をさせていただきました、神奈川県立保健福祉大学3年の星野智子です。実習を通して私が学んだことや感じたことを少し書かせていただきます。

私が学んだことのひとつは、「広い視点を持つこと」です。これは、視野を広く持つという意味もありますが、私の中では多様な考え方を持つことという意味が大きいです。実習が始まったばかりのとき、私は利用者の皆さんとの関わりの中で、自分の目で見たことだけで考えて、自分の中にある情報や感情的な部分だけで捉えていました。相手の行動や声を聴いて、「嫌だったかな」「嬉しそう」という風に考えがちでした。今回、実習の中で A さんの余暇支援としてタオル畳みの取り組みをやらせていただきました。私は取り組みを始めるまで A さんと関わる機会が余りなく、どのように取り組みを進めていくか悩みました。A さんの作業しているところを見るところから始まり、なかなか上手くはいきません

でしたが、一回一回記録をとって、今日はここまで出来ていた、この工程は苦手だから工夫しよう、昨日より順調に出来たのはなぜだろう等、積み重ねていきました。工夫を加えるときには、Aさんにとってすこしでも楽しく取り組んでもらえるようにと、Aさんの好きなものなども取り入れました。自分の中にある情報だけにとらわれて考えるのではなく、普段接する中や周囲の環境など何気なく得られることもとても大切であると強く感じました。最終日のタオル畳みの活動も課題を残す形にはなってしまいましたが、取り組みを始めたときに比べるとAさんは前向きにタオル畳みを行ってくれたように感じました。Aさんが何度も活動を行う中でタオル畳みに慣れてきたこともあるかもしれませんが、ここまでの積み重ねの中でAさんにとってこのタオル畳みが取り組みやすい活動として少しでも出来ていたら嬉しく思います。



もうひとつ私が実習で学んだことは、「相手のことを考える」です。Aさんのタオル畳みの活動を進める中で、私は何度も活動に付き合ってもらって申し訳ないという思いがありました。このとき私の中には自分の学びの活動に付き合ってもらっているという考えがあったと思います。しかし、この活動を始めたのはAさんの暮らしにつながるためであって決して私の学びのためではありませんでした。支援をしていく中で相手のことを考えているようでも、いつの間にか間違った考え方をしてしまうことがあるということに気づきました。支援を考えると、相手のことを考えて支援を組み立てていきますが、計画の段階でその支援が相手にあっているかは分かりません。支援を実施する中で、その支援が間違っていないか、相手に合っているのか、合っていないのならばどのようにしたら取り組みやすいものになるのかを考える必要があると学びました。支援する立場として、その人の生活の場面や人生にも関わることがあり、「相手のことを考える」ことは単純なことではなく、学んだことのひとつめに書いたような「広い視点を持つこと」を意識して考えることが大切だと考えました。

私が、わたげの実習で学んだことを少しではありますが、書かせていただきました。他にも沢山のことを経験し、学校の授業だけでは分からなかったことを学ばせていただきました。また、実習を通して、自分自身の課題を見つける

ことも出来ました。今回の実習の経験や学びを忘れずに、今後に生かしていきたいと思います。

最後に、この場をお借りして、自信のない自分のことを支え、丁寧に指導してくださった、実習担当者の庄司さん、個別支援計画の取り組みに協力してくださったAさん、そして23日間の実習中お世話になった横須賀たんぽぽの郷の職員の皆さん、皆さんのおかげで楽しく実習をさせていただくことが出来ました。本当にありがとうございました。

神奈川県立保健福祉大学 社会福祉学科3年
星野智子

たんぽぽの郷後援会のご案内

たんぽぽの郷後援会は、横須賀・三浦地区に在住の「自閉症」という障害を伴った人たちが、地域の一員として自分らしく生活していくために、必要な支援に取り組んでいる【社会福祉法人横須賀たんぽぽの郷】の活動を支援する事を目的に組織されました。

▼ 年 会 費	個人会員	1 口	3, 0 0 0 円
	団体会員	1 口	1 0, 0 0 0 円

たんぽぽの郷後援会にご理解、ご協力くださる方は、下記の郵便為替口座をご利用ください。

郵便為替口座番号 00240-9-17474

郵便為替口座加入者名 たんぽぽの郷後援会



ボランティアさん 募集中！！

わたげ・ふぁず・こっとなはうすで自閉症を伴う方々と一緒に何か活動してみませんか？

作業の検品、余暇活動の支援、清掃等

お手伝いをしていただける方がいましたら、ご連絡ください！！

〈連絡先〉

わ た げ 電話:046-844-0038 (担当:つしま)

E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp

ふ あ ず 電話:046-888-3961 (担当:さかい)

E-mail: adz13970@ams.odn.ne.jp

こっとなはうす 電話:046-852-8355 (担当:ひがしがわ)

E-mail: tanpoponosato-ch-rg250e@jcom.home.ne.jp



編集後記 ～編集部～

10月といえば秋。今年の夏からを振り返ると、台風は第1号が遅いと感じ、1週間に3個も同時に発生したことや、日本に上陸するという天気予報を良く見た様な気がします。

また、10月に入ったのにも関わらず、関東でも気温が34度を越えるのは、統計にない初めての事だとも言われており、秋というよりも、まだ夏に近い暑い日があります。我が施設では、10月といえば『衣替え』という長年の習慣から、夏服の衣類から、長袖、長ズボンに変わってきた方もいました。でも、まだ動く暑い日々。年々、衣類調整に困ることが多くなった気がします。私は、現在も夏の衣類を着て仕事をしています。長袖Tシャツの出番もなく、気付けばこのままトレーナーを着ているのではないと思う程、秋の衣類の必要がなくなってきたと感じています。もう10月なのに・・・。

ああ、衣類の調節も難しいですが、食欲の調節も難しい。秋といえば「食欲の秋」。秋になったら食欲が増すのは止められない。

高橋

編 集 社会福祉法人 横須賀たんぽぽの郷 〒239-0824 横須賀市西浦賀3-13-21

TEL:046-844-0038/FAX:046-844-0036 E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp